

鳥の飼育

なきごえ



1978

11

大阪市
天王寺動物園協会

大谷 昭宏



父がとりわけ動物好きだったせいだろう。子供の時から動物に囲まれて育った。イヌ、ニワトリ、インコ、カナリア、カメに金魚…。朝晩の世話は目が回るほど忙しいが、遊び相手、話し相手にはこと欠かない。そんな昔を折りにふれて、ふり返って見るのも、また心楽しい。あのワン公は、タワシで遊ぶのが好きだった。あいつは、肉屋でゆずってもらった骨をくわえさせると、すぐに「ウー」とうなって、これは、大昔に戻ってオオカミの気持ちになっているのだなと子供心に思ったことなど、思い出はつきない。

だが、そういう仕草の一つ一つより、いつまでも忘れられず、鮮明に残っているのは、それらの動物たちとの別れ、その死である。きのうまで一緒にじゃれ合っていた犬が、きょうはピクリとも動いてくれない。あるいは死期を察したのだろうか、淋しそうな目をしながら、精一杯尾を振ろうとして逝った犬。そういう場面に出会い、涙を流しながら、生きている限り避けられない死というものの残酷さ、冷徹さ、だからこそその裏返しとしての生というものの尊さ、有難さを動物たちが教えてくれたように思えるのだ。そういう生と死の前に立って人間なんて、ちっぽけで、まことに無力なものなのだ。そんなことが身にしみたものである。そういえば、大数学者の岡潔さんが、後年、「科学がこれほど発達したといったって、人間なんて、カボチャのタネひとつ、つくれんくせに」といっていたのは、大学者にして、学問を極て得た結論は、自然にぬかずき、生を畏怖

することだったのではないかという気がするのだ。ところが、最近、団地近くの公園を散歩しているとよくこんな光景にでくわす。小犬が元気よく草むらをかけ回っていると通りかかった子供が火のついたように泣き出す。すると若い母親がすっとんできて「あー、こわい、こわいでしょう。シッ、シッ」と金切り声。悪さをしたわけでもないのに、追っ払われた犬は、何のことやらわからぬまま尻尾をたれている。犬と子供は永遠に友だちにはなれないだろうし、そんな風に育てられた子供は、自分以外の生き物、あるいは、自分以外の人間さえ、決して相容れない、邪魔なものとしかうつらないのではなからうか。ことしの春、大阪府枚方市の中学生が、いじめられた級友への仕返しに、弁当箱に劇薬を入れるという事件があったが、ショッキングだったのは、事前に小鳥を使って実験していたことだった。そんな風潮を少しでも変えたいと、いま、わたしたちの新聞で「ゆうかん動物園」という連載をしている。幸い、沢山の子供や大人から、動物との楽しいかかわり合いや、動物の思い出をしるした手紙をいただいている。その取材で、動物園によく足を運ぶが、動物園、とりわけ飼育係は、子供たちに最初に自然への門戸を開いてくれるものであり、最初に出会う生物学者であり、何よりも自然界の営みの素晴らしい紹介者であるという気がする。新聞の動物園と本当の動物園が手をたずさえて、美しい自然、動物たちの愛らしさ、人と動物のかかわり合いの楽しさを知ってもらえたらとペンを握っている。すべての野生動物の保護の問題も、そういう心をはぐくんで行くことから始まっていくものだと思うのである。（読売新聞大阪本社社会部記者）

なきごえ11月号もくじ

動物と私	2
“キリンの赤ちゃん誕生”	3
動物園グラフ・動物園日記	4・5
飼育係一筋	6・7
ヨーロッパZoo ④	8・9
キーパーズ・アイ ⑦	10
動物園ニュース	11

表紙の写真説明

“アネハヅル”
このツルはツルの仲間14種の内で最小のもので、ユーラシア大陸の中央部に住んでいます。体は小さくても眼の後に白の飾り羽をつけたとても美しいツルです。

(撮影：長瀬 健二郎)



“キリンの赤ちゃん誕生”

10月26日、キリンの赤ちゃん（オス）が生まれました。母親のキリーはこれが8度目の出産だけに、落ち着いてじょうずに育てています。今回の赤ちゃんは藜ちゃんと名付けられ、元気一杯です。(妊娠期間 467日) (撮影：樽本 勲)

動物園グラフ

“大阪 — 上海 友好都市提携第三次動物交換”

昭和49年に大阪市と中国上海市との間に友好都市提携が結ばれて以来、第一次（アシカ、フンボルトペンギン⇄、マナヅル、クロオオカミ⇄）、第二次（チンパンジー⇄、ベニジュケイ⇄）と2回にわたって交流事業の一環としての動物交換を行ってきました。今回は第三次動物交換ということで11月10日、上海市からコウノトリ一番が大阪市に贈られて来ました。（撮影：大野 尊信）



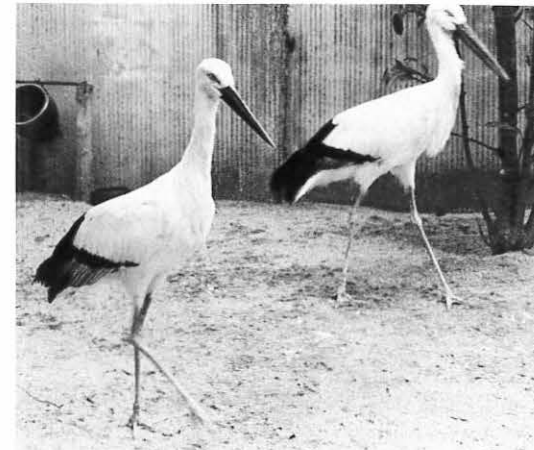
藤井助役から上海市西郊公園園長に当園から贈られるキリンの目録贈呈。



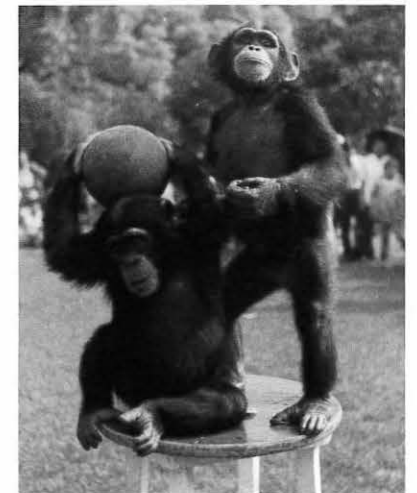
コウノトリの放鳥



園内見学でアシカに餌を与える訪問団一行。



上海市から贈られて来たコウノトリ夫婦



第二次交換で贈ったチンパンジーの近況いろいろ芸を覚えて上海市民のアイドルになっているそうです。

（上海西郊公園提供）



第一次交換で贈ったアシカの近況2頭の赤ちゃんが生まれ育っているそうです。

（上海西郊公園提供）

9・10月の動物園日記

- 9/19. カニクイザルの子が産まれました。オスの仔でした。
シロカケイのメスが元気を失くしているので治療を続けています。
21. ゾウのユリ子が右後足をピッコをひいているので調べた所、足の裏に小石がささっていたので取ってやりました。
22. 今年生れのスプリングボックの仔が足の骨を折ってしまいましたので早速手術をしま

- した。
23. 動物慰霊祭が行われました。
22日に骨折したスプリングボックは食欲も旺盛で順調に回復しています。
26. ミズオトカゲが敗血症のため死亡しました。
30. シュバシコウ4羽を沖縄のこどもの国にプレゼントしました。
- 10/2. ジャングルキャット1頭を名古屋の東山動物園にプレゼントしました。
4. ビューマが2頭の仔を出産しました。

- 10/6. アジルテナガザルのオスが1頭寄贈されました。
スペックルドキングスネークが体のあちこちに化膿症を起していましたので治療を始めました。
7. 出産準備の為カバのメスを室内プールに收容しました。
11. 秋の繁殖シーズンに入ったので危険防止のためオスのニホンジカ3頭の角切りを実施しました。
12. キリンの出産が近付いたので出産準備を始

- めました。
15. ようやく涼しくなりましたので、夏の間冷房舎に入っていたペンギン達12羽を戸外の放飼場に出してやりました。
16. ライオンが寄生虫をわかせているので駆虫薬を飲ませました。
17. トラが出産しました。
20. アカカンガルーのオスが出血性胃炎のため死亡しました。
21. 府立盲学校の生徒が来園し、ウサギやヤギの仔と楽しいひとときを過ごしました。

飼育係一筋 —28年を振り返って—

§ はじめに

私は昭和25年6月1日に動物園に飼育係として勤めはじめ、ゾウとキリンの飼育を中心に28年5ヶ月在職致しました。その間、残念だった事、嬉しかった事、様々の思い出があります。短かい文では書ききれない点も多いと思いますが、28年5ヶ月の思い出をつづってみたいと思います。

§ 就職するまで

私の生家は農業を営んでいましたが、父が道楽で牛を飼いはじめ、私は6才の頃からその世話をしていました。20才の頃までこの仕事を続け和牛を中心に朝鮮赤牛、但馬牛など飼いました。その頃までには牛の飼育には精通し、かなり自信を持っていましたので、終戦後、復員して動物園に就職することが決った時も動物の世話ならと自信を持って入ることができました。



10年前のゾウの目方を計る会での泰松氏

§ ゾウを飼って

昭和25年に私が就職したころは戦争の痛手はまだ深く残っていて、動物も現在と比べるとはるかに少なく、私は南園のキジ舎を担当したのですが、キジ舎といってもほんの少しのニホンキジやクジャクが居ただけでした。

昭和25年4月14日に春子、2ヶ月後の6月にユリ子、とたて続けにインドゾウが2頭入園し、私はこの2頭のゾウの担当になりました。

入園した時、春子は背までの高さが人の肩位ありましたが、ユリ子はせいぜい腰位までの赤ちゃんゾウで、よく馬乗りになって遊んだものです。2頭もゾウが入園し、動物園では最近のパンダブームに勝るとも劣らない爆発的なゾウブームが到来し、言葉では言えない位の空前の人出で、園内は大混雑でした。春子が大阪港から車で運ばれてきた時、出迎えに出た小学生の列が1kmもつながっていたという話

は今でも語り草になっています。こんなにすごい人気のゾウでしたが、残念なことに当時の食糧難は今からでは想像できない程で、育ち盛りのゾウ達に充分エサを与えることができない程でした。そこで、昼休みには毎日のように動物園の東にある茶臼山にまで青草を刈りに出掛けたものです。しかし、それでも足りない事もあり、そんな時は、今では寝ワラにするようなワラまで細く切ってエサに混ぜたりしました。

こんなにひどい食糧事情でも、園の人々の暖かい思いやりに見守られたせいか、春子もユリ子もすくすくと成長しました。一度だけ春子は大きな病気をしたことがあります。それは来園して2年目の冬でしたが、前日に笹を大量に食べたせいで、疝痛という腹痛を起しました。便が全く出ず、エサも食べずに痛がるばかりです。この時はつきっきりでおなかをこすったり、薬を飲ませたりの看病を続けました。10日目にやっと便が出、食欲が回復した時には本当にホッとしました。

§ キリンを担当して

昭和28年10月、戦後初のキリンが2頭入園しました。マサイキリンでした。1頭は5年間生存しましたがもう1頭は1ヶ月で死亡しました。次いで31年にも1頭入りしましたが、これも半年で死亡しました。このため、この頃他の動物園から「大阪の動物園ではキリンは2頭同時に飼えない」とまで言われた程です。私はこのウワサを聞いた時「何クソ!!」と反発しましたが、いかんせん私の担当は当時はゾウ、キリンのことにまで手が回りません。私は「今に見ている」と思っていました。

昭和33年に最後の1頭が死亡、キリン舎は空になっていましたが、翌34年一番のキリンが入園しました。今度はアミメキリンで、この内のオスは今も生きているタカオです。これを機に私は念願のキリンの飼育担当になりました。絶対に長年飼育を成功させ、繁殖をさせてやろうと意気込んでいた私は今までの失敗の原因をいろいろと考えてみました。また当時、キリンの飼育では関西一と言われていた神戸の王子動物園へも行き、色々なアドバイスを受けました。そして今まで、3頭のキリンが短い期間で死んだのは過保護に育て過ぎたせいではないかと考え始めました。そこで、まずキリンはアフリカの動

物ということで冬季30℃まで暖房を入れたのですが、それを18℃まで下げました。こうすることによってキリンは大変丈夫になりました。また、エサも改善してみました。それまでやっていたエサのうちで濃厚飼料を3倍にしたのです。それにそれまでやり過ぎていた飲水量も少し少なめにしてみました。こんな努力の結果と昭和37年に新しいキリン舎が出来、環境の改善ができたこともあって、昭和39年5月6日、待望の赤ちゃんが生まれました。このキリンはメスでキリーと名付けました。キリーもとても丈夫なメスで現在も健在です。つい先日、オスの仔、タイちゃんを出産しましたが、流産なども含めるとこれが8産目ということになります。また34年に入園した一番のキリンのうち、オスのタカオは19年を経た今日でも健在です。タカオの仔は流産も含めると実に14頭にもなります。キリーも元気ですし、また50年11月生れのリツコももうすぐ性成熟ですから、タカオの子供はこれからもまだ増えることでしょう。

§ おわりに

始め飼育したタカオから数えると私が手がけたキリンは実に10頭にものぼります。このうち完全に成熟までいったキリンは5頭です。色々と成育率を上げるため、自分なりの精一杯の努力をしてきました



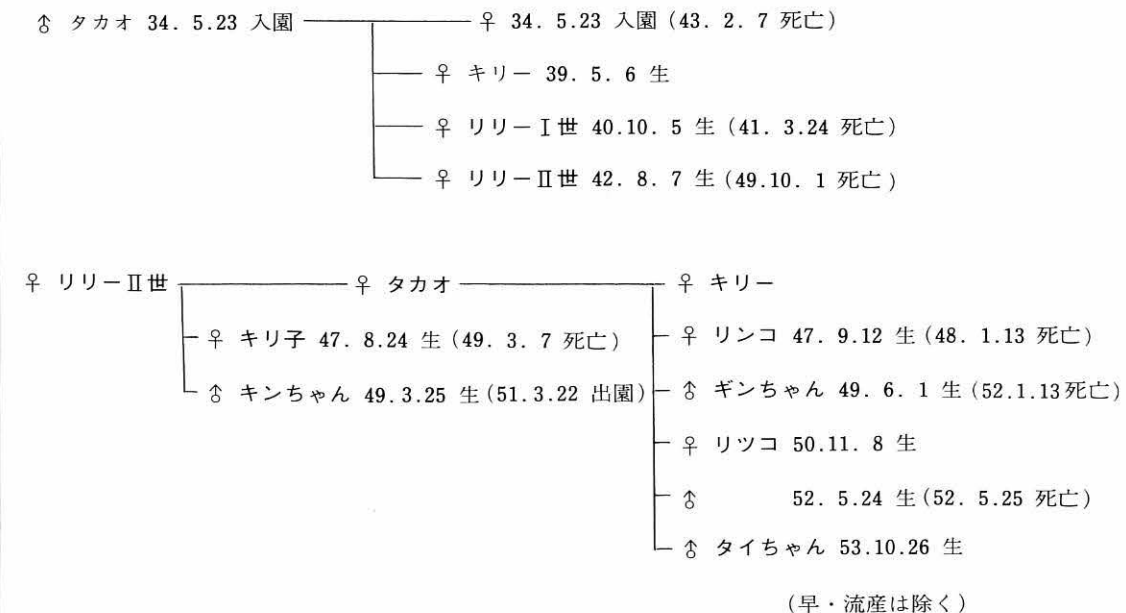
退職の前にキリンと最後の別れ

が、その結果がこれでした。これが私の唯一の心残りです。

28年前と比べると現在の動物園は夢のようです。そして、これからもドンドン素晴らしくなると思いますが、その発展に立ち会えないのはとても残念ですがこれからは外の世界から天王寺動物園の発展を見守ってゆきたいと考えています。

(前南園飼育主任) 泰松 好雄

キリンの系図



(早・流産は除く)



藤井助役
当園から



9・10月

9/19. カ
仔
シ
で
21. ゾ
る
い
22. 今
を

ヨーロッパの動物園みてあるき ④

§西ベルリン → フランクフルト

西ベルリン動物園を2時においとまし、バスでテゲル空港へ向かいました。ここから4時発の飛行機でフランクフルトへ。機内では隣に座ったインドネシア人の留学生と話がはずみ退屈せずすみしました。フランクフルト空港の案内所でホテルのあつ旋を頼むと、市内のホテルは全部満員で空室なしとのこと。一瞬、目の前が真暗！ ホテルの予約もせずに順調にここまで来たのに、とうとうここで野宿かと、楽天的な私も途方にくれましたが、とにかくフランクフルト市の中央駅まで行こうと重い足どりで地下鉄に乗りました。中央駅の案内所でも答えは同じで、全て満室とのこと。こうなるともう必死で、どこでもいいからと再度頼みこむと、どうにか郊外にあるホテルを紹介してくれました。Sーバーンに乗り、道をたずねたずね、やっと郊外のボナメスという所に着きました。駅の周囲には何もなく、目ざすホテルは駅から50m位はなれた所にあり、外見の見すばらしさに比べ、内はわりと小ぎれいな整った感じの部屋でした。周囲は見わたす限り麦畑、一夜の宿にありついた安心感から15分も歩いた所にある田舎の居酒屋でビール、ワイン、ステーキを次々に飲んで食べて……周囲にいた人達は、この東洋人はなんと飲み食いするのだろうか、あきれたような顔をしていました。

一夜あけて5月30日、二日酔もなく快調に起床、朝食後、Sーバーンに乗り中央駅へ。ここから路面電車に乗り9時に動物園に到着しました。

§フランクフルト動物園

この動物園は市の中心部にあり、1858年に開園しています。面積は11haと天王寺と同じ面積で、市立



クリップスプリンガー

の動物園です。ほどなくMartern獣医が迎えにあらわれ、園内を案内してくださいました。猛獣舎は古いわりにはなかなか清潔に保たれており、ライオンの一亜種のパーバリーライオンが飼育されていました。カモシカ類はボンゴ、オカピ、セーブルアンテロープなどの稀少動物も繁殖良好とのことでした。類人猿舎にはオランウータン、ゴリラ、珍しいピグミーチンパンジーの歴史の繁殖一覧表が掲げられてあり、オランウータンなどは20頭近くも示してあり、繁殖の優秀さがうかがえます。ゴリラ舎は室外の放飼場は全面強化ガラス張りで見やすく設計されていますが、大変な費用がかかったそうです。サル舎も明るく清潔で、特にアガウアカリ、カッシュクホエザルは世界でも初めて繁殖に成功しており、テングザルと並んで自慢動物の一つでした。

猛きん類も充実しており、オウギワシが丁度初めての産卵をしたとかで大喜びでした。又、ハクトウワシも世界で初めて人工授精による繁殖に成功しており、鳥類の中でも特に繁殖の困難なワシ、タカ類に対し研究が進んでいるようでした。又、タンチョウも人工授精を試みたそうですが、現在まだ成功していないものの期待は十分でした。人工授精は私も大いに興味がありますので、Martern獣医に文献を送ってくださるよう頼みました。



育雛中のハクトウワシ



採食中のジェレヌク

きてここでの一番の見どころは、世界の動物園でも5頭ほどしか飼育されていない、ジェレヌクです。キリンカモシカという和名の通り、首と四肢が長く、キリンを小型にしたようなカモシカです。メスが死亡してオスだけですが、以前は繁殖にも成功しています。この他、クリップスプリンガーやシマダイカー、キゴシダイカーなどの珍しいカモシカやアカカワイノシシ、アードウルフ、又、鳥類でもツカツクリやコビトペンギンなど珍しい動物が多数収容されており、見ごたえがありました。

園内見学の後、シマウマの削蹄をするというので見学させてもらうことにしました。麻酔薬はアムステルダム動物園の欄でも御紹介したM99で、吹矢式のブローイングパイプで注射器をとばして注射し簡単に麻酔して削蹄を行いました。この削蹄を見学していたため時間がなくなり、名残惜しく動物園を後にしました。



シマウマの削蹄

§フランクフルト → バーゼル

中央駅よりバーゼル行の列車に2時に乗りました。混んでいたため通路にトランクを置いてその上に腰かけ、本場のフランクフルトソーセージとパンで簡単な昼食をとりました。向い側に座ったアメリカ人

と話をしましたが、NATOのアメリカ陸軍の兵士だそうで、東京にも行ったことがあるそうで、さかんに日本のことをほめてくれました。5時半にバーゼル駅に到着、案内所で駅前のホテルを紹介してもらい投宿しました。

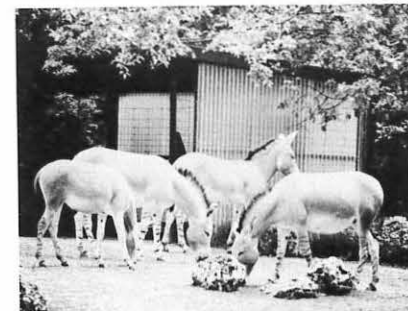
翌5月31日、7時に起床、朝食後、バーゼル動物園までゆっくり歩きました。人口16万人とこじんまりしたこの町の中心に動物園があり、朝の冷い清々しい空気にふれ、周囲のアルプスの峰々を眺めると、いかにもスイスに来たという感じです。

§バーゼル動物園

8時半に動物園に到着し門で来意を告げると、あらかじめ連絡してあったため秘書の方がガイドブックを持ってあらわれ、いろいろ説明してくださいました。この若い女性秘書、私よりも背が高く、身長に自信のある私も(公称175cm)ヨーロッパに来て初めて背のコンプレックスを感じました。

園内は緑地帯と動物舎が巧みに配置されており、ゆったりと動物が眺められ、動物自身も落ち着いた感じを受けました。この動物園は収容数はさほど多くないものの、繁殖の実績に関しては世界のトップクラスにあり、中でもボンゴ、ゴリラ、オカピ、コビトカバなどの稀少動物の繁殖で有名です。

ボンゴやソマリノロバ、ジャコウウシなどの放飼場は観覧通路との間が水路で隔ててあり、その澄みきった水中を淡水魚の群が泳いでいました。又、暑さを防ぐためか、水を霧状にして



水煙につつまれたボンゴ

放飼場に散布してあり、いかにも涼しげな感じでした。類人猿舎は世界にも誇る施設の一つで、1日中室内で飼育できるように設計されており、非常に見やすい動物舎でした。ゴリラは2群に分けて飼育されており、繁殖成績もすばらしくゴリラは2世代目、オランウータンは3世代目ということでした。

マレーバク、コビトカバの放飼場は園内を流れる小川をせきとめて小さな池を作り、周囲の植こみや砂地の陸地など自然景観的に作られていました。コ

ビトカバは母親と並んで2頭の仔と一緒に昼寝をしており、説明板を見ると昨年生まれたオス、メスの双仔とのこと、飼育下では勿論初めての繁殖例で、3頭の親仔のほほえましい昼寝姿にしばしば見とれてしまいました。



双仔のコビトカバ

園内は随所にベンチが設けられてあり、一休みしているとリスや野鳥が人をあまりこわがらずに側に寄って来たりして、本当に落ち着きのある動物園です。フラミンゴやツル、ガンカモ類は羽根の一部を切って飛べないようにしてあるらしく全て放飼いですが、柵の高さが30cmほどと非常に低いため柵外に出ようと思えば簡単に出られそうで、園内を数種の収容鳥類があちこち散歩しており、私の休んでいる横をナベコウがすり抜けて歩いて行ったのには驚かされました。又、シュバシコウも柵のすぐ内側の手をのばせば届きそうな地面に巣を作ってヒナをかえており、こんなに動物と人間がニアミスしてもトラブルがないとは日本の動物園ではとても考えられないことです。

アフリカゾウ、インドゾウも十分調教されており、芸を見せたり入園者を乗せて園内を歩かせたりすることで有名ですが、時間の都合で残念ながら見学できませんでした。

3時に事務所に戻ると、Lung園長が待っておられました。Lung園長には5年前に天王寺動物園に来られたこともあり、非常に気さくなやさしい方です。この動物園のことをいろいろ伺い、園内の見どころをもう一度案内して頂きました。ボンゴやオランウータンの赤ちゃんを近くで見せてもらったり、



テングザル

珍しいドゥクラングールや見おとしていた4種のコロボスも見せてもらいました。ゴリラやボンゴ、オカピなどの繁殖の秘けつをたずねると、「分りません、多分、環境、餌、飼育技術がいいのでしょう」との答え。確かに環境、技術ともすばらしく、又、餌に関してもこの動物園独自で人工固型飼料を開発するなど動物園の研究努力がうかがえます。最後にお茶をごちそうになり親切なもてなしに感謝しつつ動物園を後にしました。(つづく)

(飼育課:宮下 実)

キーパーズ・アイ Keepers' Eye ⑦

☆コンドル・フィーバー

コンドルと言えば空を飛ぶ事のできる鳥の中では最大の鳥で、気性もはげしく、飼育されているコンドルがしばしば係員をおそったりする事があります。しかし、当園の猛禽フライングケージにいるコンドル夫婦は人によくなれていて、担当の私が餌を持って中に入っていくと、大きな羽を広げて餌をねだる程よくなれています。しかし今年の8月のある日の事、いつもの様に私が餌を持って中に入ると、コンドルのめすが岩かげにうずくまっており、どうしたのかとそばに行くと、突然とびかかってきたのです。今までよくなっていたのにどうして突然気が荒くなったのかとコンドルのめすを観察していると、コンドルのめすは小枝や



枯草などを集めて巣造りをしているのです。そして時々大きな羽を広げて首を下にさげコトコトコと声を出しているのです。「コレは産卵するかもしれないなあ」と私は期待をかけたのです。しかし、それから待てども待てども、コンドルのめすは卵を産んだ気配もなく、秋風が吹く季節になってもまだ巣の上ですわりこんでいるので、1度巣の中を確認して見ようと、決死の思いでコンドルのめすのそばに近づいていくと、人なつこく私のそばによってきたのです。そして巣の中には、卵らしきものは見られませんでした。今年の夏は、猛暑が続いたためか、コンドルのめすも頭にきて気が荒くなったのかも知れませんね。(農本 武志)

☆バーバリーシープ舎のサブリーダー杯争奪戦

10月5日の木曜日、今までサブリーダーだったNo.2のサブとNo.3のモロがサブリーダー権の争奪闘争を始めた。この日は前夜からの雨模様。午前8時30分頃、雌の発情に伴う角つき合いから始まったその闘いはかなり激しいもので、一時ボスのドンが仲裁に入ったが止まず、その角つき合いの時の角をぶつける音はバシン、バシンとまるで丸太で剣道をしているような音だ。30mあまり離れた所で仕事をしていても充分聞こえる位。午前11時頃までにNo.3のモロが鼻血を出し、角の根元や角部3ヶ所位から出血をみた。No.2は口内から出血、闘争は朝に比べ、より激しくなった。午後1時20分、No.3のモロが右眼



フレイメンをするオス

を激しく角で打たれ、ボクシングで負けた選手の眼のように腫れ、鼻血が流れた。この闘争は夕方遅くまで行なわれたが、No.2のサブの方がダメージや外傷は少なかった。翌6日、闘争はやはり早朝から

行なわれていたらしく、共に昨日からの事もあり、疲れが見え始めた。この日はぶつかり合いより角をひっかけ合って引っ張り合うこぜりあいが多く、休むようなところも見られた。闘争がとぎれるとすぐに雌を追うのである。午前9時15分、No.2のサブが左肩に裂傷を負った。離れ際にモロの角が左肩に突き刺さったのだった。午後2時20分頃、No.3のモロの左眼上部が切れ、かなり出血を始めた。



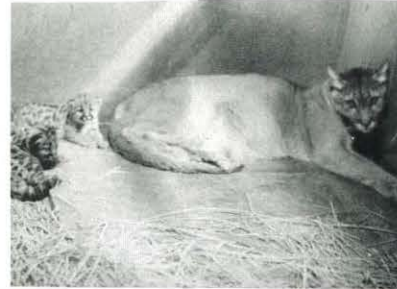
頭をさげて闘争の姿勢をとる

たて7~8cm、よこ5cm位の皮がペロリとはがれ、肉が露出している。午後1時給餌に行くのにらみ合いを続けていた2頭が餌場に降りて来た。闘争は昼からは中止。餌も少しずつ敬遠しながらも食べるようになった。昨日からの闘争を考えるとウソのようだが、まだ順位が決まらない。どうやらサブリーダー杯は今回引分けのようだった。

(仲谷 登)

§ 出産動物

10月4日、ビューマが出産しました。今回の子供は2頭でした。性別はまだわかっていませんが、母親は今回が4度目の出産で、よく落ち着いて十分に子供達の面倒を見ているようです。これでこの母親は10頭出



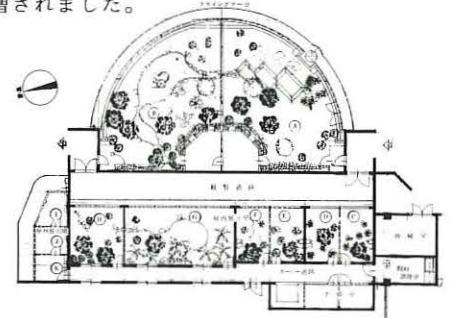
産したことになりますが、すべて順調に大きくなりました。この号が出版される頃には可愛い子供達の姿をご披露できると思います。

10月6日にはアグーチが出産しました。これも2頭でやはり順調に育っています。小獣舎のアグーチ舎へ行か



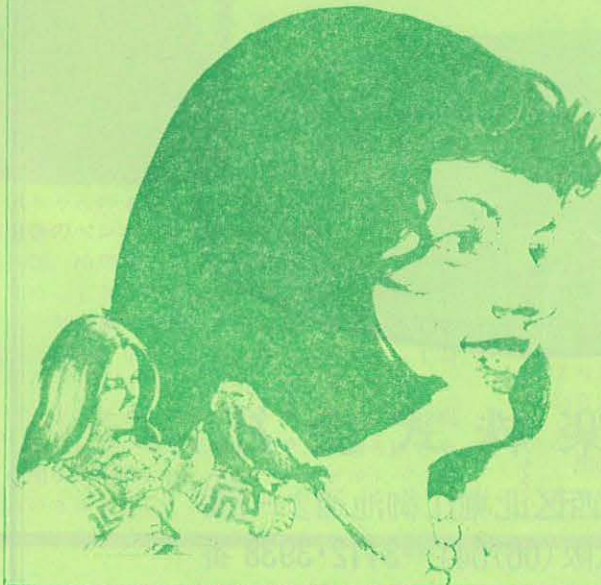
§ 「ことりの家」が完成

このたび財団法人日本宝くじ協会から天王寺動物園へ「宝くじの益金」により新しく「ことりの家」が寄贈されました。



これは、今までのことり舎を新しく建替えたもので、7月中旬から工事を行っていましたが、この

くらしを彩るショッピング



近鉄百貨店

アベノ店 (06) 624-1111・上本町店 (06) 779-1231
東京近鉄 (0422) 21-3331

・近鉄百貨店グループ

大阪(アベノ・上本町)・東大阪・奈良・京都・岐阜
枚方・四日市・和歌山・徳山・別府・東京(吉祥寺)

キーパーズ・アイ Keepers' Eye ⑦

☆コンドル・フィーバー

コンドルと言えば空を飛ぶ事のできる鳥の中では最大の鳥で、気性もはげしく、飼育されているコンドルがしばしば係員をおそったりする事があります。しかし、当園の猛禽フライングケージにいるコンドル夫婦は人によくなれていて、担当の私が餌を持って中に入っていくと、大きな羽を広げて餌をねだる程よくなれています。しかし今年の8月のある日の事、いつもの様に私が餌を持って中に入ると、コンドルのめすが岩かげにうずくまっており、どうしたのかとそばに行くと、突然とびかかってきたのです。今までよくなっていたのにどうして突然気が荒くなったのかとコンドルのめすを観察していると、コンドルのめすは小枝や

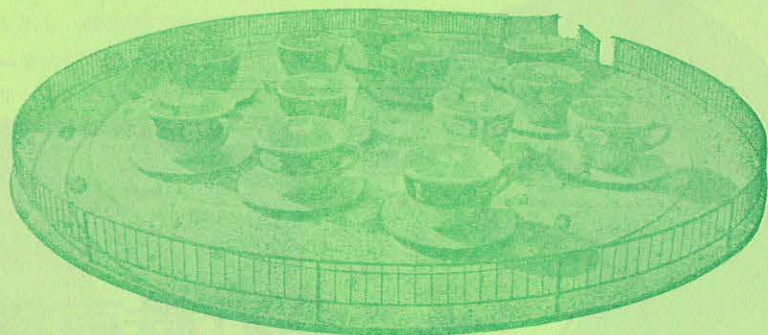


枯草などを集めて巣造りをしているのです。そして時々大きな羽を広げて首を下にさげコトコトコと声を出しているのです。「コレは産卵するかもしれないなあ」と私は期待をかけたのです。しかし、それから待てども待てども、コンドルのめすは卵を産んだ気配もなく、秋風が吹く季節になってもまだ巣の上ですわりこんでいるので、1度巣の中を確認して見ようと、決死の思いでコンドルのめすのそばに近づいていくと、人なつこ

う私のそばによってきたのです。そして巣の中には、卵らしきものは見られませんでした。今年の夏は、猛暑が続いたためか、コンドルのめすも頭にきて気が荒くなったのかも知れませんね。(農本 武志)

☆バーバリーシープ舎のサブリーダー杯争奪戦

遊園施設委託経営・製作・販売



久竹娯楽株式会社

本社 工場 大阪市西区北堀江御池通2-100
電話 大阪(06)541-3112・3938 番

§ 出産動物

10月4日、ピューマが出産しました。今回の子供は2頭でした。性別はまだわかっていませんが、母親は今回が



4度目の出産で、よく落ち着いて充分に子供達の面倒を見ているようです。これでこの母親は10頭出

産したことになりますが、すべて順調に大きくなりました。この号が出版される頃には可愛い子供達の姿をご披露できると思います。

10月6日

にはアグーチが出産しました。これも2頭でやはり順調に育っています。小獣舎のアグーチ舎へ行か



れるとチョコチョコと走り廻るかわいい子供達をご覧になれます。

10月26日にはキリンの子供が生まれました。今まで昼間の出産が多かったのですが、今回は午後8時



50分頃産まれました。母親は流産も含めると8産目というベテランママのキリーで子供の面倒をととてもよくみています。今回の子供はオスで、泰ちゃんと命名されました。これでキリンの家族は父親のタカオ、母親のキリー、お姉さんのリッコ、

それに泰ちゃんの4頭家族となりました。

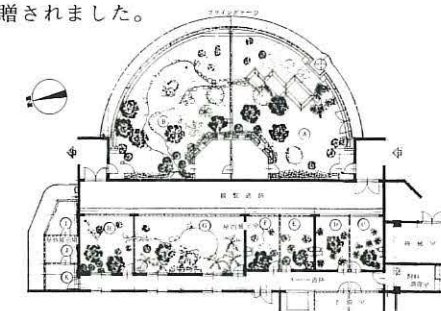
§ 冷房舎のペンギン達、戸外へ移動

暑い期間、冷房舎に入っていたペンギン達もやっと涼しくなってきたので10月15日、戸外に移動させました。今年は暑さが続いたせいか、昨年よりも2週間遅れの移動となりました。キングペンギン1羽、イワトビペンギン6羽、マカロニペンギン2羽、マゼランペンギン1羽、ケープペンギン2羽の計12羽で、久しぶりに浴びる日光のもとで、気持ちよさそうに夏の間別れ別れになっていたファンボルトペンギン達とあいさつを交していました。



§ 「ことりの家」が完成

このたび財団法人日本宝くじ協会から天王寺動物園へ「宝くじの益金」により新しく「ことりの家」が寄贈されました。



これは、今までのことり舎を新しく建替えたもので、さる7月中旬から工事を行っていましたが、このたび完成し、さる、11月4日(土)、午前10時から動物園において贈呈式が催され、市民にお目見えしました。

§ 「動物折紙展」開催

子どもたちが動物に親しみ、動物たちを愛する心が芽ばえるように、「動物の折紙展」を10月8日から11月15日まで、北園展示館において開催しました。

これは6つの展示コーナーにわけて、第1コーナーには、古代人類、猿類の折紙、第2コーナーには哺乳類、



以下、鳥類、は虫類、両せい類、昆虫の折紙を展示し、さらに折紙の折り方や手順の説明コーナーなども設けました。

休園日のお知らせ

動物園の休園日は毎月第3月曜日です。来年2月までの休園日は下記の通りです。
11月20日、12月18日、12月29日から1月1日、(年末年始)、1月16日(火)、2月19日(月)
開園時間は9時半～4時半で、4時に切符売止めになります。

なきごえ 昭和53年11月15日発行(毎月1回15日発行)

編集/大阪市天王寺動物園

発行人/大阪市天王寺動物園協会 和田辰巳

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共)

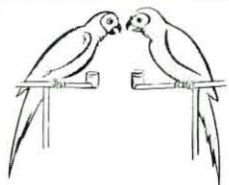
第14巻第11号(通巻159号)

〒543 大阪市天王寺区玉水町2

電話 大阪 (06)771-0201

振替口座 大阪 37823

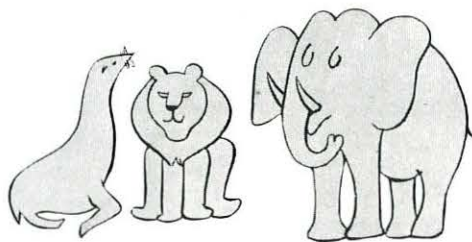
1年継続(12部)1,100円(送料共)



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円



有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517

飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494



自然の
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はいっさい含まれていません。



雪印ヨーグル

各130c.c.=90円

パイン・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル

編集委員

板野 健一・前木 妙子・大野 尊信・米田 敏光・樽本 勲・中川 道朗・高橋 真三・農本 武志
石島 宏胤・野口 秀高・宮下 実・橋本 一郎・長瀬健二郎・三浦 正明・葭谷 文彦・仲谷 登